美浜の渋沢栄一!?

山　本　直　成

～佐柿が生んだ実業家～

山本直成　明治 24 年(1891)
丸木利陽(1854-1923)撮影　山本直哉氏提供

若狭国吉城歴史資料館

1　一万円札の顔　渋沢栄一の青年時代

令和六年、新紙幣が発行されます。これに伴い、一万円札の顔が福沢諭吉から渋沢栄一に変わります。渋沢は明治時代に実業家として、第一国立銀行をはじめ五〇〇を超える企業の設立・育成に努めたといわれます。こうしたことから彼は「日本資本主義の父」や「近代日本経済の父」などと呼ばれていますが、青年時代は水戸学、特に尊王攘夷論に影響を受け、多くの志士と交流しました。中には、儒学者藤田東湖の子で水戸天狗党の藤田小四郎もいました。

渋沢栄一（1840～1931）
出典　国立国会図書館「近代日本人の肖像」
（https://www.ndl.go.jp/portrait/）

2　幕末の若狭佐柿と水戸天狗党

幕末に攘夷を掲げて挙兵した水戸天狗党（水戸浪士）は、慶応元年（一八六五）に首領の武田耕雲斎や藤田小四郎らが敦賀で処刑されるという最後を迎えました。しかし、中には生き残った浪士たちがおり、彼らは小浜藩に預けられました。藩では彼らを「准藩士」と呼んで藩士と同格に扱い、同三年には藩の町奉行所があった佐柿（美浜町佐柿）に屋敷を新築して敦賀から彼らを移しました。彼らは一年弱の間を佐柿で過ごし、明治元年（一八六八）に帰藩が許されると、京都で水戸藩の役人に渡されましたが、その時同行していた小浜藩士の一人に山本直成という者がいました。

3　山本直成の生涯

山本直成は、天保九年（一八三八）に小浜藩卒山本直幸の子として佐柿に生まれました。尊王論の影響を受けて文久元年（一八六一）に上京し、小浜藩主酒井家と強い信頼関係にあった岩倉具視に仕えました。

当時岩倉は朝廷（公）と幕府（武）の融和を図る公武合体派として、一四代将軍家茂と孝明天皇の妹和宮の結婚（和宮降嫁）を実現させました。しかし、この政略結婚は尊王攘夷論者から非難され、特に過激派は岩倉の命を狙うようになり、岩倉は京都の岩倉村（京都市左京区岩倉地区）に身を隠しました。

岩倉具視（1825～83）
出典　国立国会図書館「近代日本人の肖像」
（https://www.ndl.go.jp/portrait/）

その時直成が身を以て岩倉を守ったことから、岩倉の信頼を得るようになったといわれます。明治時代に入っても岩倉家と酒井家の関係は続き、明治二年に直成は藩の「永久の貸人」として、事実上脱藩して岩倉家の家人となり、その後二〇年以上にわたって仕えました。

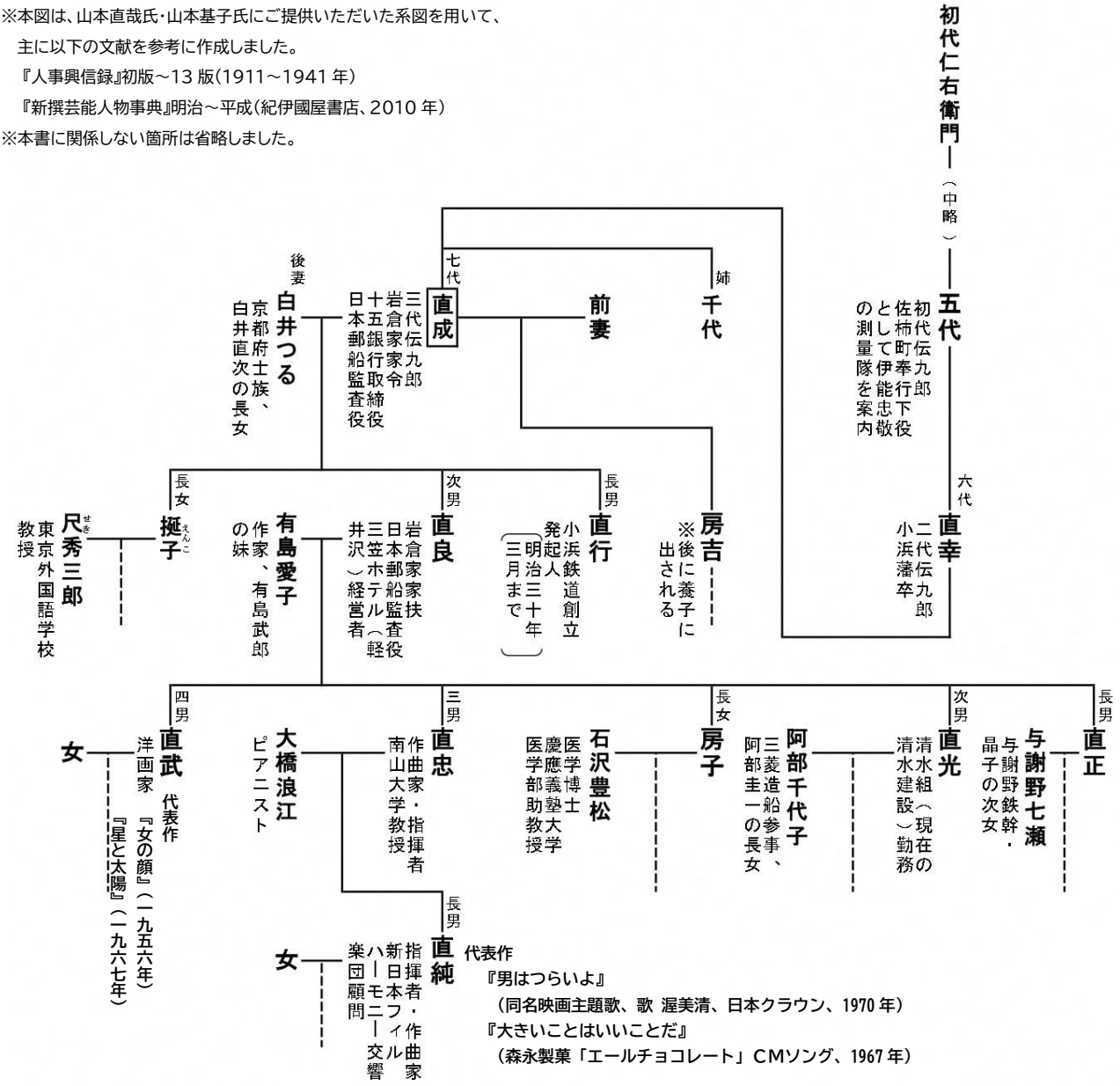
彼は同家の会計方を長く担当し、明治九年（一八七六）に家令に任ぜられると、岩倉の命により実業家として民間経済の発展に尽くします。彼は十五銀行（三井住友銀行）や日本鉄道、日本郵船などいずれも近代産業の発展を導いた企業の役員を務め、三条実美や大隈重信、渋沢栄一など数多くの官僚や実業家との交流がありました。また、彼は福井県でも活動しており、若狭地方の鉄道敷設を計画した小浜鉄道株式会社の設立に出資しましたが、同社の資金不足により明治三十三年（一九〇〇）に計画は中止されました。その他、佐柿にある日吉神社の拝殿を建立し、佐柿の要道（佐柿）尋常小学校や河原市の弥美（耳）尋常高等小学校の運営資金を寄付するなど、故郷の社会公共事業にも力を注ぎました。

【主な参考文献】

島田昌和『渋沢栄一　社会起業家の先駆者』岩波書店、二〇一一年
中島嘉文「小浜藩と岩倉家・久我家を結ぶ史料」
『平成三十年度　酒井家文庫等保存活用協議会報告』二〇一九年
『令和三年度夏季企画展展示解説書　水戸天狗党と美浜』
若狭国吉城歴史資料館、二〇二一年
『崇光院殿謙享直成大居士経歴及葬祭事項　天』
山本直哉氏蔵、年未詳

山本家系図～佐柿が生んだ華麗なる一族～

※本図は、山本直哉氏・山本基子氏にご提供いただいた系図を用いて、
主に以下の文献を参考に作成しました。
『人事興信録』初版～13 版(1911～1941 年)
『新撰芸能人物事典』明治～平成(紀伊國屋書店、2010 年)
※本書に関係しない箇所は省略しました。



佐柿に残る
山本直成ゆかりの史跡

日吉神社

准藩士屋敷跡

年号	西暦	年齢	主な出来事		日本の出来事
天保 9	1838	1	誕生～青年時代	9 月 18 日、若狭国佐柿村(美浜町佐柿)に小浜藩卒・山本直幸の子として生まれる	1841 天保の改革(～43) 1853 ペリー来航
文久元	1861	24		尊王の志士として上京 8 月 1 日～、岩倉家近習役として仕える	1862 和宮降嫁 1867 大政奉還
明治元	1868	31		1 月、北陸道鎮撫総督・高倉永祜が下向小浜藩御用掛となる 3 月、水戸浪士の身柄を京都の本圀寺で引き渡すために同行 4 月 2 日、小浜藩の「貸人」として再び岩倉家に仕える	1868 五箇条の御誓文 1869 版籍奉還 1871 廃藩置県 郵便開業
明治 2	1869	32	岩倉家時代	12 月、小浜藩の「永久の貸人」として、以後 20 年以上岩倉に仕える	1872 学制公布 新橋・横浜間鉄道開通 太陽暦採用
明治 3	1870	33		1 月、一等士族となる	
明治 9	1876	39		4 月 1 日、岩倉家の家令になる	1873 徴兵令 地租改正
明治 10	1877	40	実業家時代(岩倉家時代)	2 月、岩倉の命により華族の負債を取り調べ第十五国立銀行事務取調掛になる	1876 秩禄処分 1877 西南戦争
明治 12	1879	42		6 月、第十五国立銀行世話役になる(一時辞職。同 17 年から復帰)	
明治 16	1883	46		7 月 20 日、岩倉具視死去　御葬儀掛を務める	1881 松方財政開始 1882 日本銀行開業
明治 19	1886	49		10 月 23 日、日本鉄道理事委員に当選(～同 31 年 4 月)	1889 大日本帝国憲法発布
明治 23	1890	53		9 月 1 日、十五銀行支配人になる	1890 第 1 回帝国議会開会
明治 26	1893	56		7 月 1 日、岩倉家での 30 年以上の勤労が褒賞終身年金 300 円を授与 12 月 1 日、日本郵船監査役就任(～同 28 年 11 月 30 日)	1894 日清戦争(～95)
明治 30	1897	60		5 月、第十五国立銀行における長年の勤労、世話役兼支配人としての勤労が称えられ、金合計 2 万 2000 円を授与 5 月 21 日、十五銀行取締役就任 9 月 1 日、丁酉銀行取締役就任 12 月 27 日、明治維新の功労者として従五位を授与	1901 八幡製鉄所操業開始 1904 日露戦争
明治 31	1898	61		病気のため十五銀行・日本鉄道等をすべて辞職	1906 鉄道国有法
明治 44	1911	74	晩年	丁酉銀行が十五銀行に買収されたのを機に実業家を引退晩年を神奈川県酒匂村(小田原市酒匂)の別荘で過ごす	1914 第一次世界大戦(～18)
大正 4	1915	78		7 月 10 日、慢性腎臓炎のため死去	

若狭国吉城歴史資料館

〒919-1132　福井県三方郡美浜町佐柿 25-2
TEL.0770-32-0050　FAX.0770-32-0057
開館時間　午前9時～午後5時(4～11月)
　　午前10時～午後4時30分(12～3月)
　　※入館は、閉館の30分前まで
休 館 日　毎週月曜日(休日の場合はその翌日)
　　休日の翌日、年末年始(12月29日～1月3日)
入 館 料　一般100円、小人50円　※団体割引20名以上